

■知的支援校における実践事例

高等部卒業後の より豊かな生活を願って

三重大学教育学部附属特別支援学校
達 直美



社会参加に向けてICT教育を推進

三重大学教育学部附属特別支援学校は、知的障害や知的障害を伴う自閉症のある子どもたちが多く学んでいる特別支援学校です。

社会に出る前の高等部では、自立と社会参加に向けて一人ひとりのニーズに応じた教育実践が求められているところです。その一環としてICT教育が推進されており、個のニーズに応じて学習環境を整える必要があると考えます。

本校のICT教育における環境は、まだまだ整っていませんが、2011年度（平成23年度）から他機関の協力を得ながらiPadを借用し、学習アプリを活用して基礎・基本の学習力・コミュニケーション力・情報収集力などをつける取り組みをおこなっています。そ

のことで、生徒の潜在的可能性を見出し、豊かな将来へつなげたいと考えています。

マルチメディアDAISY図書自体についても知らない教職員が多い現状ですが、教科書バリアフリー法が制定され、さまざまな機関で実践される中、障害のある子どもたちの「読み書き」の支援への有効性などの情報を教職員間で共有し、理解啓発していく必要性を感じます。

今回のマルチメディアDAISY教材を活用する研究に参加することで、生徒の学習環境を整え、自立と社会参加への効果を検証しながら、教職員、保護者へのICT教育およびマルチメディアDAISY図書の理解啓発をしていきたいと思っています。

子どもたちに提供する前に おこなった準備

①生徒への準備として

- iPadの活用
学習アプリ、メール、インターネットを経験させました。
- パソコンの活用
マウスやタッチパネルの使い方を経験させました。

②保護者への準備として

- 保護者の理解啓発
ICT機器活用およびiPad活用の研修会を開催しました。

③教職員への準備として

- iPadの活用
教職員に試しに使用してもらう機会を設けました。
- マルチメディア教材の理解啓発
マルチメディア教材理解の資料配布などを実施しました。

ただしこの準備は、クラスや学部教員への理解啓発をめざしたもので、残念ながら、全職員への理解啓発には至っていません。

利用の形態

①学校

クラスでは朝の会や生活単元学習で利用しました。

また、課題学習（個に応じたグルー

プ学習の時間）や、休み時間での利用もおこないました。

②家庭

週末の家庭学習で利用しました。また、長期休業中の家庭学習で利用したり、余暇活動で利用したりしました。

マルチメディアDAISY図書利用に関するルール

子どもたちの集中力が持続する時間は限られていますので、時間設定を個に応じて考える必要があります。子どもたちにマルチメディアDAISY図書を使用する時間をあらかじめ伝えておきます。これは、家庭でも同様です。

そして、利用時の生徒の様子の記録をとります。

今後は、ほかの学校の利用ルールなども参考にしながら、さらに取り組んでいきたいと思えます。

活用の様子 —— 『おおきなかぶ』

①クラス単位の朝の会における取り組み

パソコンをプロジェクターにつなぎ、クラス全員で (1)見る → (2)読む → (3)「どっこいしょ」などのせりふを大きな声で読むという流れでおこないました。

じっと画面を見つめ集中する姿や、言葉を発しにくい生徒がマルチメディアDAISY図書の音声に合わせて発声する姿が見られました。

同じクラスの中には実態の異なる8名の生徒がいます。マルチメディアDAISY図書の活用を通して、個々の力を発揮して、卒業生を送る会で劇をすることを目指して取り組んでいます。



スクリーンに映し出された『おおきなかぶ』をクラス全員で見ているところ

②家庭学習での取り組み

学校で取り組んだ『おおきなかぶ』を家庭でも一人で読む練習をしてもらいました。



『おおきなかぶ』をiPadで読む

写真の生徒は、毎日、新聞のニュースを発表しているのですが、文章をす

らすら読むことがなかなか難しい状況にあります。マルチメディアDAISY図書の活用を通して、DAISYの音声に合わせて読んだり、ハイライト表示になっている黄色い部分に合わせて読んだりすることで、自信をもつことができるようになればと思っています。

平成25年度の研究課題

以下の予想できる効果について検証したいと思います。

- 漢字を正確に読み取ることができる。
- 文章を正確に読み取ることができる。
- 何度もわからないところを再生でき、理解を深めることができる。
- 読めることで自分でもできるという自己効力感が育める。
- 人の力を借りずに自分で取り組めるので、自立心が芽生える。
- 読めることで学習への意欲が向上する。
- 落ち着かないときなどのセルフコントロールに自ら本を読む行為によって気分を転換できる。
- 余暇の過ごし方の一つとなる。

下線部の効果が自立と社会参加への一つの力となるのではないかと考えます。